

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-106316

(43)公開日 平成5年(1993)4月27日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

E 0 4 D 13/06

識別記号

1 0 6 J

庁内整理番号

7416-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平3-269355

(22)出願日 平成3年(1991)10月17日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 平田 立

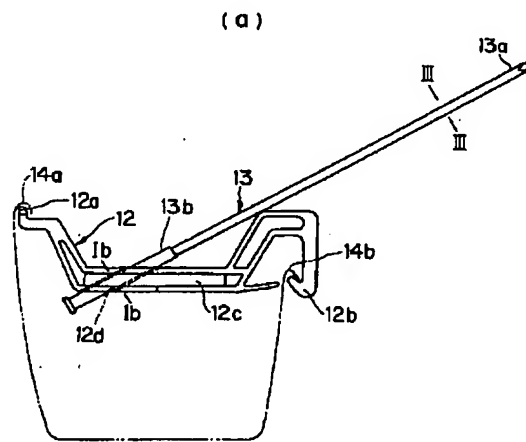
埼玉県浦和市四谷2-7-18

(54)【発明の名称】 軒樋吊り具

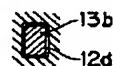
(57)【要約】

【目的】本発明は、軒樋(雨樋)を家屋等の建物の軒先部(鼻隠し板等)に取り付けるための軒樋吊り具に関し、取付作業効率のみならず保管時、輸送時等の容積効率をも改善しながら、取付時に吊り具本体に回転が生じないようにして、軒樋の安定した係止・取付を可能にすることを目的とする。

【構成】そこで、軒樋14を保持するための吊り具本体12と、この吊り具本体12を建物側に取付・固定すべく建物側に先端部13aを打ち込まれる固定用釘13とを有してなるものにおいて、吊り具本体12に、固定用釘13が下方から斜め上方へ向かって貫通しうる貫通孔12dを形成し、この貫通孔12dの断面形状、および、吊り具本体12の固定時に貫通孔12d内に嵌合する固定用釘13の基端部13bの断面形状を非円形にすることを特徴とする。



(b)



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 軒樋を保持するための吊り具本体と、該吊り具本体を建物側に取付・固定すべく該建物側に先端部を打ち込まれる固定用釘とを有してなる軒樋吊り具において、前記吊り具本体に、前記固定用釘が下方から斜め上方へ向かって貫通しうる貫通孔が形成され、該貫通孔の断面形状、および、前記吊り具本体の固定時に前記貫通孔内に嵌合する前記固定用釘の基端部の断面形状が非円形であることを特徴とする軒樋吊り具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、軒樋(雨樋)を家屋等の建物の軒先部(鼻隠し板等)に取り付けるための軒樋吊り具に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、この種の軒樋吊り具としては、例えば、実公平3-16335号公報等に開示されたものなど種々のものがあり、その内のいくつかの例を図5～図7にそれぞれ示す。

【0003】図5に示す軒樋吊り具1は、軒樋2を保持するための吊り具本体3と、この吊り具本体3を建物側に取り付ける取付部4とから構成されている。吊り具本体3の両端部には、軒樋2の両上端縁の耳部2a、2bに係合・保持する保持部3a、3bがそれぞれ形成されるとともに、吊り具本体3は、取付部4にビス等によって固定されている。

【0004】このような軒樋吊り具1によれば、取付部4を釘、ビス等で建物の軒先部の壁面等に係止・固定し軒樋吊り具1を取り付けた後、吊り具本体3の保持部3a、3bに軒樋2の耳部2a、2bに係止・嵌着させることで、軒樋2の取付が行なわれる。

【0005】また、図6に示す軒樋吊り具1Aは、軒樋2を下方から持ち上げて支持するための支持具本体5と、この支持具本体5の底面から突設され斜め上方へ向けて曲折されてなる打込足6とから構成されている。

【0006】このような軒樋吊り具1Aによれば、軒樋2の取付時には、ハンマー等により、打込足6を下方から斜め上方に向け軒先部の壁面等へ打ち込んで、軒樋吊り具1Aを取り付けた後、支持具本体5上に軒樋2を嵌合させることにより、軒樋2の取付が行なわれる。

【0007】さらに、図7に示す軒樋吊り具1Bは、軒樋2を保持するための吊り具本体7と、この吊り具本体7を建物側に取り付けるべく建物側に先端部を打ち込まれる固定用釘8とから構成されている。

【0008】吊り具本体7の両端部には、図5に示したものと同様に、軒樋2の両上端縁の耳部2a、2bに係合・保持する保持部7a、7bがそれぞれ形成されるとともに、この吊り具本体7は、屋外側に円弧状に曲折された立上り部7cが形成され、この立上り部7cには、

固定用釘8が貫通しうる長孔7dが長手方向に形成されている。

【0009】また、固定用釘8の基端部には、螺条8aが形成されており、この螺条8aに螺合するナット9と蝶ナット10とによって、吊り具本体7の長孔7dの縁部を挟持することで、吊り具本体7が固定用釘8に対して固定されるようになっている。

【0010】このような軒樋吊り具1Bによれば、まず、固定用釘8の先端部を軒先部の壁面等の適当な位置に打ち込んでから、固定用釘8の基端部の螺条8aにナット9を螺合させ、固定用釘8の基端部を吊り具本体7の長孔7dに通した後、適当な位置で蝶ナット10を螺条8aに螺合させて締め付けることにより、吊り具本体7を固定する。そして、吊り具本体7の保持部7a、7bに軒樋2の耳部2a、2bに係止・嵌着させることで、軒樋2の取付が行なわれる。

## 【0011】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、図5に示す従来の軒樋吊り具1では、吊り具本体3と取付部4とのビス止めや、取付部4の軒先部への取付などが必要で、軒樋吊り具1の組立て工数が多くなり、軒樋2の取付設置時の作業効率自体も悪くなる。

【0012】また、図6に示す従来の軒樋吊り具1Aは、軒樋2を取り付ける軒先部の壁面等に打込足6を打ち込むだけで取り付けられ、取付施工は簡易であるが、支持具本体5の底面に斜め上方へ向かう打込足6が固着されて設けられているため、軒樋吊り具1Aの保管時や輸送時には嵩張ってしまい容積効率が悪いという課題がある。

【0013】一方、図7に示す従来の軒樋吊り具1Bでは、吊り具本体7と固定用釘8とを分離して保管できるので、保管時や輸送時の容積効率は改善されるが、固定用釘8の打込作業と、この固定用釘8への吊り具本体7の取付作業とが必要で、軒樋2の取付設置時の作業効率が悪い。また、ナット9、蝶ナット10の締付状態によっては、吊り具本体7が固定用釘8のまわりに回転する可能性があり、軒樋2の安定した係止・取付を行なえないという課題もある。

【0014】本発明は、このような課題を解決しようとするもので、取付作業効率のみならず保管時、輸送時等の容積効率をも改善しながら、取付時に吊り具本体に回転が生じないようにして、軒樋の安定した係止・取付を可能にした軒樋吊り具を提供することを目的とする。

## 【0015】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の軒樋吊り具は、軒樋を保持するための吊り具本体と、該吊り具本体を建物側に取付・固定すべく該建物側に先端部を打ち込まれる固定用釘とを有してなるものにおいて、前記吊り具本体に、前記固定用釘が下方から斜め上方へ向かって貫通しうる貫通孔を形成し、該

貫通孔の断面形状、および、前記吊り具本体の固定時に前記貫通孔内に嵌合する前記固定用釘の基端部の断面形状を非円形としたことを特徴としている。

【0016】

【作用】上述した本発明の軒樋吊り具では、吊り具本体の貫通孔内に固定用釘を通して建物側にその先端部を打ち込むだけで、吊り具本体が建物側に取付・固定される。このとき、固定用釘における断面非円形の基端部がやはり同一形状で断面非円形の貫通孔内に嵌合するため、吊り具本体が、固定用釘まわりに回転するのを防止することができる。また、吊り具の保管時や輸送時には、吊り具本体と固定用釘とを分離でき、容積効率を改善することができる。

【0017】

【実施例】以下、図面により本発明の一実施例としての軒樋吊り具について説明すると、図1(a)はその側面図、図1(b)は図1(a)のIb-Ib線に沿う拡大断面図、図2はその平面図、図3は図1(a)のIII-III線に沿う拡大断面図、図4は貫通孔および固定用釘の基端部の断面形状の変形例を図1(b)の断面位置に対応させて示す断面図である。

【0018】図1(a)および図2に示すように、本実施例の軒樋吊り具11は、吊り具本体12と固定用釘(打込足)13とを有して構成されている。吊り具本体12は、例えば合成樹脂製のもので、その中央水平部12cの両端部には、軒樋14の両上端縁の耳部14a、14bと係合して軒樋14を保持する係止部12a、12bが、それぞれ立上り形成されている。また、固定用釘13は、例えばステンレス材製のもので、吊り具本体12を建物側(図示せず)に取付・固定すべく、図3に示すような円形断面を有する先端部13aを建物側に打ち込まれるものである。

【0019】そして、本実施例では、図1(a)に示すように、吊り具本体12の中央水平部12aには、固定用釘13が下方から斜め上方へ向かって貫通しうる貫通孔12dが形成されている。この貫通孔12dの断面形状、および、吊り具本体12の固定時に貫通孔12d内に合致・嵌合する固定用釘13の基端部13bの断面形状は、図1(b)に示すような長方形(矩形、非円形)となっている。なお、貫通孔12dと固定用釘13の基端部13bは同一の断面形状を有しているが、貫通孔12dの内周寸法の方が固定用釘13の基端部13bの外周寸法よりも若干を大きめに設定されている。

【0020】上述の構成により、軒樋14の取付に際しては、まず、吊り具本体12の貫通孔12d内に固定用釘13を通して建物側にその先端部13aを打ち込み、吊り具本体12を建物側に取付・固定した後、この吊り具本体12両端の係止部12a、12bに、軒樋14の耳部14a、14bを係止することにより、軒樋14の取付が行なわれる。

【0021】このとき、本実施例の軒樋吊り具11では、ハンマー等により軒樋14を取り付ける軒先部の壁面等の建物側に固定用釘13を打ち込むだけで、吊り具本体12を取り付けることができ、その取付施工は極めて簡易に且つ素早く確実にこなされる。

【0022】また、固定用釘13における矩形断面の基端部13bがやはり同一矩形断面の貫通孔12d内に合致・嵌合するため、吊り具本体12が固定用釘13まわりに回転するのを確実に防止でき、軒樋14の安定した係止・取付を実現できる。

【0023】さらに、吊り具の保管時や輸送時には、軒樋吊り具11を、吊り具本体12と固定用釘13とに分離して収納することができ、容積効率を改善できる利点もある。

【0024】なお、本発明は、上記実施例に限定されることなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲での設計変更等があっても、本発明の範囲に含まれる。例えば、上記実施例では、吊り具本体12の貫通孔12dの断面形状および固定用釘13の基端部13bの断面形状を矩形とした場合について説明したが、図4に示すような楕円形としてもよく、また、この他、円形以外の形状、つまり、固定用釘13の基端部13bに対して吊り具本体12が回転しない形状であれば、どのような断面形状としてもよく、いずれの場合も、上記実施例と同様の作用効果が得られる。

【0025】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明の軒樋吊り具によれば、吊り具本体に、固定用釘が下方から斜め上方へ向かって貫通しうる貫通孔を形成し、この貫通孔の断面形状、および、吊り具本体の固定時に貫通孔内に嵌合する固定用釘の基端部の断面形状を非円形にするという極めて簡素な構成により、取付作業効率や、保管時、輸送時等の容積効率が改善されるだけでなく、取付時に吊り具本体に回転が生じなくなり、安定した軒樋の係止・取付を実現できる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例としての軒樋吊り具を示すもので、(a)はその側面図、(b)は(a)のIb-Ib線に沿う拡大断面図である。

【図2】本実施例の軒樋吊り具を示す平面図である。

【図3】図1(a)のIII-III線に沿う拡大断面図である。

【図4】貫通孔および固定用釘の基端部の断面形状の変形例を図1(b)の断面位置に対応させて示す断面図である。

【図5】従来の軒樋吊り具を示す側面図である。

【図6】従来の軒樋吊り具の他の例を示す側面図である。

【図7】従来の軒樋吊り具のさらに他の例を示す斜視図である。

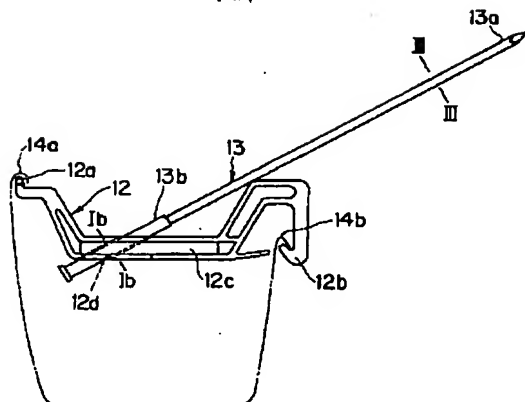
## 【符号の説明】

11 軒樋吊り具  
 12 吊り具本体  
 12a, 12b 係止部  
 12c 中央水平部  
 12d 貫通孔

13 固定用釘  
 13a 先端部  
 13b 基端部  
 14 軒樋  
 14a, 14b 耳部

【図1】

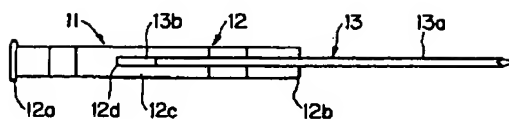
(a)



(b)

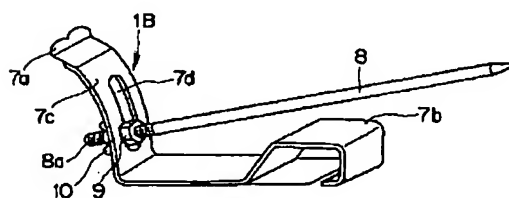


【図2】



【図3】

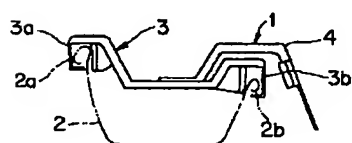
【図7】



【図4】



【図5】



【図6】

